

## 西川地域における最近の高性能林業機械等の導入状況

西川地域の森林では、人工林の7割が伐採して利用できる45年生以上の林齢となっています。これらの森林資源を有効に利用していくためには、路網の整備や機械化の推進が大きな課題となっています。

昨年度から間伐や木造公共施設の整備など、森林整備から木材利用までの一体的な取組を支援する「森林整備加速化・林業再生事業」が始まりました。

西川地域においては、高性能林業機械等を活用した低コスト搬出システムの普及が比較的遅れています。当該事業により、管内の林

業事業体において、昨年度3台（スイングヤーダ、グラップル付きトラック、ザウルスロボ）、今年度1台（グラップル付きバックホウ）が導入されました。

平成22年12月末現在の導入状況は埼玉県全体で43台ですが、そのうち西川地域では6台となっています。

今後は、高性能林業機械等の導入により、間伐等の森林整備が進むとともに、木材搬出コストの縮減や利用できる木材の生産増大が期待されます。



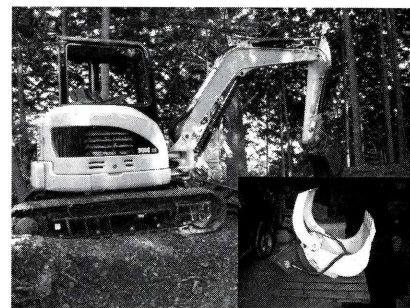
スイングヤーダ

(ベースマシンに集材ウインチを搭載、アームをタワーとして使用できます。)



グラップル付きトラック

(木材をつかんで荷台に積込みができます。)



ザウルスロボ

(木材をつかんだり、掘削ができる多機能機械です。)

## みどりの基金バスツアーを実施

林業部では、「彩の国みどりの基金活用事業」として、水源地域の森林から里山・平地林に至る森林整備を行っています。

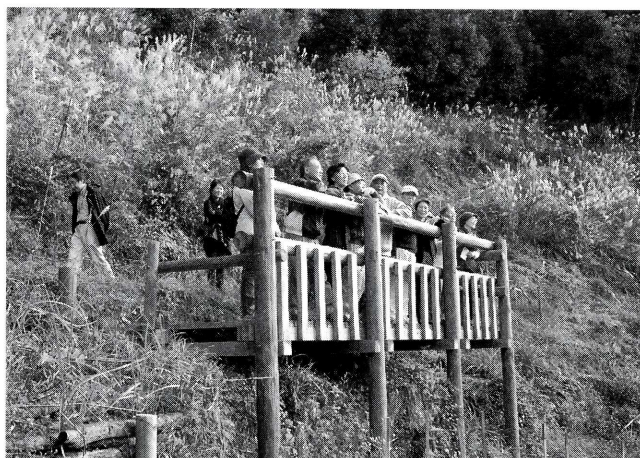
この事業により整備された森林に県民の方々を御案内し、成果を実感していただこうと、11月20日にバスツアーを開催しました。

午前中は名栗湖畔の整備された森林を散策後、地元西川材の間伐材でつくられた和船で、湖上から紅葉を堪能していただきました。

午後は天覧山に移動し、基金事業で整備された遊歩道を登り、山頂からの眺望を楽しんでいただきました。

参加者からは、「みどり基金事業」の役割

や森林の持つ公益的機能について理解を深めることができた大変好評でした。



名栗湖畔 水源地域の森づくり事業実施箇所